キャプテン翼ゆかりの地 葛飾

地域のシンボルとして愛される『キャプテン翼』

『キャプテン翼』の物語は、主人公の大空翼が引っ越した先である静岡県南葛市と、石崎了や若林源三と出会うところから始まります。舞台となるこの架空の地に、“南葛（なんかつ）”という チーム名があります。『キャプテン翼』の原作者であり、葛飾区四つ木出身である高橋陽一先生ならではのアイデアといえるでしょう。せせらぎ“という地名は、高橋先生の出身校である「東京都立南葛飾高等学校」をモチーフにお付けたものです。葛飾区はまさにキャプテン翼ゆかりの地であり、作品の連載が始まった1981年から40年以上が立ったいま、地域のシンボル的な存在として多くの人々に愛されています。

聖地巡礼スポット紹介

『キャプテン翼』原作者

高橋陽一先生描き下ろし “葛飾区オリジナルイラスト”

荒川河川敷
四ツ木駅から近く

荒川は埼玉県と東京都を流れ、東京湾に注ぐ全長173キロの一級河川です。河川敷にはサッカーができる球技場や野球場が整備されています。

立石フェスタ
京成立石駅周辺で毎年9月に開催

立石フェスタとは、京成立石駅周辺で開催される年に一度のイベントです。長年親しまれたのが、ブラジルの音楽として有名なサンバのカーニバル。イラストでは立石駅通り商店会を進むダンサーと大空翼が描かれています。

四つ木つばさ公園
公園の場所は葛飾区四つ木1-22-3

2013年3月、「四つ木つばさ公園」で『キャプテン翼』の銅像第1号となる大空翼像の除幕式が行われました。この銅像は小学生時代の大空翼が等身大で表現されており、銅像の高さは翼の身長と同じ145センチに設定されています。

立石一丁目児童遊園
公園の場所は葛飾区立石1-21-6

2014年3月、必殺技の“ヒールリフト”を披露する大空翼、味方に指示を送る若林源三の銅像が新たに公開されました。翼像は「立石一丁目児童遊園」、若林像は「立石みちひろば」に設置されています。

葛飾区　観光課　(03)3838-5558
葛飾区観光ポータルサイト　https://www.katsushika-kanko.com/

©高橋陽一／集英社　©高橋陽一／集英社・2018キャプテン翼製作委員会

この用紙は、印刷用の紙へリサイクルできます。令和5年4月

まいるーど四つ木商店街を歩こう

『キャプテン翼』の銅像のくりて、「いるーど四つ木商店街」の散策もまじのーつ。この商店街では、葛飾区で開生したクリスクリ人が購入できます。「キャプテン翼ウプル」「ドリンクドリンク」なども、お土産としても最適です。

注目！木ッ！ 亀有香取神社

葛飾区亀有にある亀有香取神社も『キャプテン翼』ファンにとは注目のスポットい。「スポーツの神様」「災悪健康の神様」が祀られており、大空翼と日向小次郎が描かれた記念の絵馬が購入できます。ウォッカーコーヒ缶の「絵馬ハリ」も必見です。

『キャプテン翼』原作者・高橋陽一先生からのメッセージ

僕にとって、葛飾区の四つ木・立石エリアは生まれ育った場所であり、子どものころからこの地を長く生きしています。四ツ木駅が自宅からの最寄り駅だったこともあり、大空翼の銅像がある四つ木つばさ公園付近は、子どものころの僕にとっては大きな遊び場でした。また、神木邸の銅像が設置されている渋江公園にはカーコーバがあり、夏の時期にはよく遊びに行ったこと を覚えています。翼やゆ岬を含め、四つ木・立石エリアには『キャプテン翼』のキャラクターの銅像が9体あります。銅像めぐりを目的に日本全国から葛飾区に足を運んでくれる方もたくさんいます。単に作品の舞台の方もいます。皆さんの姿を見るたびに、原作者として大きな喜びを感じています。東京とはいえ、この地域は下町なのでとても古きかな空気が漂っています。このマンガ を親りに、のんびりとした散歩感覚で9体の銅像をめぐりながら、人情あふれ、どこか懐かしさが感じられる“下町ならではの雰囲気”をぜひ楽しんでいただけたらと思います。

たかはし・よういち｜1960年7月28日生まれ。東京都葛飾区出身。1980年に『キャプテン翼』で漫画家デビュー。阿修羅王のみたかす、世界各国における カーの普及・発展に大きく貢献。2017年6月にタンバーズ通商100番を表彰した。葛飾区を拠点に活動し、ルーズルを目指す南葛SCの代表を務める。

まるでスタジアム！ 四ツ木駅の特別装飾

四ツ木駅は、駅の入り口や階段、さらにはコーンにまでマニメ『キャプテン翼』の特別装飾（ラッピング）が施されています。大げさ さまでなく キャラクターが描かれたその空間には、まるでサッカースタジアムのような雰囲気が漂っています。

NAMIKATSU SC

「葛飾からルーツへ！」
葛飾区を拠点とする南葛SC

「葛飾からルーツへ！」というスローガン、葛飾区を拠点に活動しているサッカークラブが南葛SCです。南葛SCとは、『キャプテン翼』のなかで大空翼が小学生時代に所属したチームと同じ名前。作品の原作者である高橋陽一先生がクラブのオーナー兼代表を務めており、ユートナーとして業ともにルーツへの参入を短期目標としています。『キャプテン翼』のように日本全国、さらには世界中の人々から愛されるクラブになれるよう、子どもたちに夢と希望を、クラブ・サポーターに感動と感動を与えながら、地域と社会の発展に貢献することを目指しています。

南葛SC／松岡健三郎　※撮影：2023年2月

全国各地のチームが葛飾区に集結！ 「キャプテン翼CUPかつしか」

葛飾区では、高橋陽一先生がスポンサーを務めた12歳以下対象のサッカー大会、「キャプテン翼CUPかつしか」を開催しています。南葛SCのユースチーム や葛飾区選抜をはじめ、「キャプテン翼」ゆかりのある全国各地のチーム も多数出場。さまざまな地域の選手たちが葛飾区に集結し、区内の各会場で熱戦を繰り広げます（毎年1月開催予定）。

南葛SC／松岡健三郎

キャプテン翼 銅像めぐりマップ

特別巻

KATSUSHIKA CITY

葛飾区の四つ木・立石エリアを楽しもう！の巻

©高橋陽一／集英社

葛飾区は“キャプテン翼ゆかりの地”

世界中で愛される『キャプテン翼』は、葛飾区とともに縁深い作品です。

“キャプテン翼ゆかりの地”を楽しもう!

キャプテン翼

銅像めぐりマップ

四つ木　立石

6 岬太郎銅像

あらゆるプレーを芸術的にこなす“フィールドのアーティスト”。小学生のころから大空翼と高次元の連係プレーを披露し、「ゴールデンコンビ」として注目を集めた。

渋江公園（東立石3-3-1）

15分

7 大空翼銅像（ヒールリフト）

ヒールリフトとは、両足で挟んだボールを背後で浮かせ、かかとで高く蹴り上げて目の前の相手をかわす技術。大空翼の得意技で、作品中の重要なシーンでも使われている。

立石一丁目児童遊園（立石1-21-6）

5分

8 若林源三銅像

大空翼の前に現れる最初のライバルであり、その後はともに日本一を目指す南葛SCのチームメートである。「S.G.G.K（スーパーグレートゴールキーパー）」の異名をとる。

立石みちひろば（立立石4-28-14先）

7分

9 大空翼銅像（ツインシュート）

大空翼と岬太郎の「ツインシュート」を再現。高橋陽一先生の母校、東京都立南葛飾高校の校門脇に設置された銅像。翼の相棒としてともにシュートを放とう。

東京都立南葛飾高等学校正門横（立石6-4-1）

7分

5 中沢早苗銅像

学ラン姿の応援団長は、大空翼に一目ぼれして以来、「ファイト翼くん」の大旗を振ってどんなときでも全力応援。中学時代はマネージャー、将来は妻として翼を支える。

葛飾郵便局前（四つ木2-28-1先）

9分

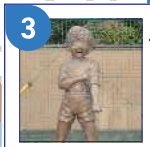
4 ロベルト本郷&大空翼銅像

元ブラジル代表の日系ブラジル人であり、大空翼にサッカーの魅力や楽しさを伝えたロベルト本郷。物語の序盤で2人は出会い、ロベルトは翼の成長を見守った。

めだかの小道（四つ木2-3-3先）

6分

3 大空翼銅像



「ボールはともだち」を信条とする大空翼の活躍を描いた作品は、日本サッカー界の発展に大きく貢献。海外の有名サッカー選手にも「キャプテン翼」ファンが数多くいる。

四つ木つばさ公園（四つ木1-22-3）

5分

2 日向小次郎銅像

豪快なドリブル突破と強力なシュートを武器とするストライカー。その闘志あふれるプレーから“猛虎”と呼ばれ、「タイガーショット」をはじめ、多くの必殺技を持つ。

四つ木公園（四つ木1-16-24）

5分

1 石崎了銅像

主人公・大空翼が物語のなかで最初に出会う仲間が石崎了。ガッツあふれるプレーでチームに貢献。相手のシュートを弾き返す「顔面ブロック」は彼の代名詞。

四ツ木駅前ポケットパーク（東四つ木4-15-10先）

マップの見方

- マップには、『キャプテン翼』の特別装飾が施されている四ツ木駅をスタート地点とし、9つの銅像をめぐるおすすめルートを掲載。
- ⚽のマークは、銅像が設置されている場所を示しています。銅像ごとのQRコードを読み取ると、それぞれの設置場所が確認できます。歩行中のスマートフォン等の使用はやめましょう。
- ピンクの網かけは商店街です。

※地図は「葛飾観光ガイドマップ」（2020年3月発行）のデータをもとに制作しています。